

PC橋との出会いと現場の魅力



コーアツ工業株式会社
工事部 工事一課

大迫 正和

はじめに

私が最初に橋造りに触れたのは、学校の授業で橋の模型造りを行ったことでした。その授業は選択制で、特に橋に興味があったわけではなく、他のものより楽しそうというだけで選んだものでした。しかし私は、そこから徐々に橋造りの魅力に取りつかれていきました。その頃地元（鹿児島県）での就職先に悩んでいた私は、模型造りの担当をしていた先生から、県内の企業で橋の施工を中心に行っているところがあることを聞かされました。そこで模型ではなく本物の橋の製作に携わりたいと思いはじめていた私は、その企業、コーアツ工業に入社することを決めました。私は、入社してからこれまで14箇所の現場でPC橋の施工に携わってきました。今回は、その中から初めての片持架設工法のPC4径間連続ラーメン箱桁橋の現場について紹介します。

初めての片持架設工法の現場

紹介する現場は、鹿児島県霧島市隼人町に位置する新設のPC橋の工事です。工事の目的は、現道の線形不良や急勾配区間の改善を行い、道路交通の安全性の向上を図ることで鹿児島空港への利便性を高めるための工事のひとつになります。橋長は352m、工期は約2年半で、私が経験した中では最大規模の現場となりました。これまでに経験してきた現場は、橋桁を1径間毎にクレーン等を使って架設を行う工法ばかりでしたが、この現場は橋脚の左右から移動作業車を使って、1ブロック（3m×4m）毎にコンクリート打設↓PC鋼材緊張を繰り返して、バランスをとりながら張出して施工する工法です。徐々に橋桁が伸び完成に近づく様子はとてもやりがいを感じました。

また、この工事では現場研修会や夏休みの親子見学会等が多数実施され、多くの人に日頃なかなか見ることができない橋梁の現場や重機等に触れ合う機会をつくることができました。私にとっても有意義な現場となりました。現在はまだ他工事が行われており、開通を心待ちにしているところです。

休日のごし方

休日は、現場近くの温泉やサウナ

を探してよく行っています。さらに最近は、世間的にもキャンプブームということもあり、趣味にしようという目的で、これまで長期休暇には、旅行によく行っていましたが、現在はコロナ禍ということもあり旅行に行くことができませんので、家でひとりで映画鑑賞をしたり、近くで食事に行ったりしています。

最後に

入社して8年が経ち、これまでに半年程の工期の小さな現場で所長を務めたこともありましたが、なかなかスムーズに現場を進めることができず、悩むことも多くありました。しかし、それでもなんとか無事に工事を終わらせることができた時は、悩んだ数だけ達成感があり、少なからず成長できていると実感し、この仕事に就いてよかったです。と思います。

現在私は、鹿児島県発注の工事現場代理人として勤務しています。工期は2年程で、現場代理人として勤務するものとしては一番規模の大きな現場になります。この現場が終わるころには今よりさらに成長できるように日々勉強し、現場を無事故で終わらせることに努めたいと思います。



▲ 親子現場見学会



▲ 初めての片持架設工法の現場



▲ 所長として初めて担当した現場

#003 仕事場拝見

人と人とを
つなぐ仕事



オリエンタル白石株式会社
福岡支店技術部 技術チーム

下川 愛

悪戦苦闘の毎日

多くの人々の暮らしを支えている土木の魅力に惹かれ、この仕事に携わるようになって約20数年経過しました。私は現在、劣化したRC床版をプレキャストPC床版へリニューアルする工事の設計に携わっており、慣れない鋼桁の図面と向き合いながら悪戦苦闘する毎日を送っています。

橋の町医者の難しさと現場完工の充実感を体験して

入社後、数年間は新設橋の設計や既設橋の補修・補強設計業務に携わりました。ものづくりをダイレクトに感じられる楽しさの一方で、補修・補強設計業務では診断や対応策の提案という内容に、経験間もない自分が『橋の町医者』的なことができるのかと、よく悩んだものです。

入社6年目に所長として現場を担当する機会に恵まれ、固定式支保工架設の現場を経験しました。念願の現

場勤務に胸を弾ませ赴任したものの、材料の手配ミスで職長さんから怒鳴られ落胆し、トイレを皆で共有する環境に馴染めず、こっそり近くの公園のトイレを利用する日々に女性であることを悲観したこともありました。何かから始めてよいかわからない状態でしたが、先輩等にアドバイスをいただき、無事に橋を架けることができました。

竣工後、地元の方に感謝されたことや、祖母と母を現場へ案内した際に、「よく頑張った」と労ってもらったことは、今でも私の働く励みになっています。当時は、現場に従事する女性技術職は非常に少なく、女性でも「橋を造る仕事」に携わることができるのだと自信になりました。

「女性活躍」という言葉のプレッシャーのなかで

初めての現場勤務から10年後、再び現場へ赴任する機会が訪れました。数年ほど橋梁を施工する仕事から離れたブランクに不安を抱き、更には、建設業界で謳われ始めた「女性活躍」という言葉のプレッシャーを感じながらの現場勤務でした。桁高2・7mあるセグメント桁のすぐそばで出来形計測などを行う作業では、誰にでもできない仕事を携われている誇りを感じながらも、その圧倒的な存在に恐怖を感じることもあり、また、酷暑のなかでの熱中

症や日焼け対策に苦戦したり、スズメバチと遭遇したりと、内勤ではできない経験をしながらか無事に橋を架ける目標に向かって現場勤務に奮闘しました。

この現場では、発注者と協働で多くの現場見学者や研修生を受入れ、訪れた参加者に土木で働く女性を直接「見て、聞いて、話して」もらい、土木の楽しさを感じてもらおうという活動を行いました。この活動が評価され、(二社)日本建設業連合会が取組んでいる『第1回けんせつ小町活躍推進表彰』で優秀賞をいただくことができました。当時の国土交通大臣にもお会いすることができ、大変貴重な経験ができました。

誰もができない仕事に誇りと感謝を忘れず

社会では、状況や環境など自分ではコントロールできない部分もありますが、理解しあえる仲間や職場環境があれば、どんな人でも活躍できると思います。モノを造る仕事を離れようと悩んだ時期もありましたが、理解と支援を下さった方々のおかげで、土木の世界で仕事を続けられています。土木の魅力は、そのスケール感の大きさと、人々の暮らしに直結する生活環境の整備です。誰もができない仕事に携われていることに誇りと感謝を忘れず、人と人を繋ぐ構造物を造り、人と人を繋げる橋渡しができるように。



▲けんせつ小町活躍推進表彰優秀賞の記念盾



▲10年ぶりの現場



▲所長として初めて担当した現場

橋は社会に残る



日本高圧コンクリート株式会社
PC事業部札幌支社 工事部

鈴木 篤朗

入社から現場研修

私は幼いころから、ものづくりに興味があり漠然と建設業や土木関係に就職したいと考えていました。大学在学中に何十年も社会に形が残るコンクリート橋を作っている当社に興味を惹かれ、入社に至りました。

入社後に一番初めに苦労したことが橋梁の用語を覚えることでした。建築学科出身の私は上部工・支承・ウェブなど、どれも聞き覚えのない言葉ばかりでした。

けれども現場研修で用語や図面の見方、測量器具の据え方や操作方法、鉄筋の配筋写真と撮影方法等の多くを一から学びました。

今でも忘れない初めての橋

研修を経て入社後2年目の私はプレテンション桁の現場架設の担当として従事しました。

当初は施工の段取りも分からず不

安な気持ちで過ごしていました。しかし恥ずかしながら、「分からないから教えてください！」という気持ちで上司や職人さんと話をしていくと現場で次に必要なことや現場自体の流れを理解できるようになりました。それから自分でも考えたことを発信し、相談や打ち合わせができるようになり、自分の手で現場が進捗しているという実感と自信ができました。その現場で中央分離帯のコンクリートの打設した翌日、自分の測量で橋の形ができたことに感動と嬉しさを感じました。またコンクリートの表面に触れた時に「コンクリート温度ってこんなに熱くなるんだ！」と思ったことを今でも覚えています。

現在の現場は名馬の産地

現在私は北海道日高地方の新冠町にいがふちまちでPC連続ラーメン箱桁橋の現場に従事しています。

業務内容は主に工程管理や施工資料の作成、資機材の手配等です。現場は太平洋のすぐ近くで、海風が強い日もあります。晴れた日には水平線に夕日が沈んでいく景色を橋の上から見るができます。

新冠町は「サラブレッドのまち」とも言われており、あまり詳しくはない私でも知っているハイセイコーや

ナリタブライアン、昨年の無敗の三冠馬コントレイルなど日本を代表する名馬の産地として有名です。国道235号線から折れて山間部に向かう道道沿いは、通称サラブレッド銀座と呼ばれ、多くの牧場や競走馬関連の施設があります。かつての名馬が遊んでいるところをよく見かけるので、現場と宿舎の車の往復も楽しんでいきます。

いとしの家族

休日には、妻と1歳になる子どもとよく買い物に出かけ、オムツやミルクなどをいっぱい抱えて妻とふたりでせつせと家に運んでいます。

最近、子どもは小走りをしたり、少しづつ言葉を話します。少し前までハイハイもできなかったのに！と成長に驚きと喜びを感じつつも、机の上の物を落とすなどヤンチャなところも目立ってきました…。

私が出張中も保育園で熱を出した子どものお迎えに走ってくれたり、夜中に夜泣きする子どもをあやしてくれている妻を尊敬していますし、本当に感謝しています。

将来、妻と子どもと一緒に出掛け、私が施工した橋梁を渡り、「この橋はお父さんが作った橋なんだぞ！」と自慢することが夢です。



▲ サラブレッド銀座駐車公園にて



▲ 現在の現場



▲ 初めての現場